

The new Audi 80.



基本性能の新しい基準。



クラスを超えた、新次元を拓くサルーン。

New アウディ 80、誕生。

初登場から今日まで、アウディ 80の歴史は輝かしい賞賛に満ちています。1973年、初代アウディ 80は、サルーンとしての資質の高さを評価され、ヨーロッパカーオブザイヤーを受賞。その後時代の推移とともに進化を遂げ、優れた居住性、高品質、エアロダイナミクスと、そのたびに世界中から絶大な支持を受け続けてきました。そしてここに、New アウディ 80、誕生。スタイルにおいても、走行性能においても、世界中のクルマが均質化しつつある現在、これからのコンパクトサルーンには何が求められるのか。クルマにとって本当に大切なものは何なのか。地球環境への対応も考慮しつつ、アウディは、クルマそのものを見つめ直

すことからニューモデルの開発を始めました。ボディ、エンジン、サスペンションといったクルマの基本をひとつひとつ検証し、それぞれの向上を図りました。大胆なスタイルや目新しい装備に依存するよりも、目立たなくても不可欠なこと、例えばボルト1本、ラバーマウントひとつからの性能向上が、クルマそのものの大きな飛躍になる、*性能プラスα*を生み出すと確信しているからです。その結果、New アウディ 80は、すべての基本をかつてないレベルにまで飛躍させることができました。「クラスを超えたサルーン」といえるほど、一層の洗練を加え、磨きをかけることができました。高めたのは、基本性能。目指したのは、数値を超えたく*性能プラスα*。これがコンパクトサルーンへの、アウディの自信に満ちた解答です。さらに高次元へ。クルージングアメニティ、New アウディ 80。

アウディのクルマづくりの姿勢が、

コンパクトサルーンに〈性能プラスα〉をもたらす。

New アウディ 80は、コンパクトサルーンの域にとどまらない、クラスを超えたサルーンとして開発されました。それは単にスペック上の突出をめざすのではなく、それぞれの基本性能の向上がもたらす数値を超えたハーモニー、すなわち〈性能プラスα〉の実現をめざしたのです。基本性能の向上。それは、さらなる走りの実現のために、まず動力性能に向けられました。これまでの2.0ℓに加えて、新たに2.3ℓエンジンをラインアップ。2.0ℓは、電子燃料噴射制御システムを装備するなど、性能の向上を図りました。そして2.3ℓは、熟成と信頼を誇る5気筒エンジンを搭載し、ひとクラス上のゆとりある走りを実現したのです。動力性能に加えて、それを支えるボディ/シャーシの基本性能も高めました。Newアウディ 80は、クルマの全幅を全く変えずに、トレッドを前30mm/後35mmそれぞれ拡大し、走行安定性を高めました。また、ボディサイズの全長を最小限に抑え、ホイールベースも65mmと大幅に延長し、トレッドとの相乗効果により直進性に優れた快適な乗り心地を実現しました。もちろんアウディの開発の手はそれだけにはとどまりません。パワー、ボディに呼应し、いかなる走行状態でもしっかりと支え、しなやかに受け止める足回りへも目を注ぎました。まずボディ/シャーシの剛性をいっそう高め、フロント、リヤサスペンションともラバーマウントなどを見直し、ポテンシャルアップをはかるとともに、絶妙のセッティングにより、強い脚力に鍛え上げました。また現代人の幅広いアクティビティに合わせて、スペースユーティリティの向上にも着目。リヤシートを可倒式とし、余裕あるラゲッジスペースを実現しています。走行性能、居住性能における基本性能の向上。これらのトータルなバランスアップが、アウディ 80に新たな快適性能をもたらしました。コンパクトサルーンの新次元を拓く、クラスを超えたクルマ。Newアウディ 80の誕生です。

これからのコンパクトサルーンとして、

真の快適の意味を問う。

アウディの考える快適。それは、すでにアウディがセンスとして持っている上質な室内空間、機能的なインストルメントパネル、幅広いスペースユーティリティといった機能としての〈快適〉だけではありません。万全を期しているアクティブセーフティ、パッシブセーフティ両面からの安全対策も、〈安心感という名の快適〉を生み出します。さらに、錆保証10年を実現するフルジंकボディ、塗装の保証3年というペインティング技術も、〈高品質という快適〉をもたらしています。これら3つの要素が、基本性能の向上と相乗効果を生み、アウディのめざす快適は初めて実現されるのです。また、地球資源や社会環境への配慮も忘れてはいません。アウディは、環境や社会の犠牲の上に本当の快適は成り立たないという観点から、再生可能部品の採用など、地球に優しいクルマづくりも着々と進めています。かつてのコンパクトサルーンでは味わえなかった豊かさと上質さに満ちたワンランク上への熱い意志。Newアウディ 80。いまの時代に求められている快適さの新しい価値を、全身でプレゼンテーションする一台です。

高めたのは、基本性能です。
性能プラス^{アルファ}α。New アウディ 80





高められた基本は、
ひとクラス上の走りの領域へ。



市街地走行では俊敏に反応し、ハイウェイではのびやかな走行感覚が味わえる。アウディのエンジンは、低回転域では力強く、高回転域ではスムーズさを特長としています。単に数値レベルの突出でなく、数値をこえて、意のままに操れるフィーリングを大切にしているのです。動力性能に応えるボディ/シャーシやサスペンションにも、独自の技術を結集し、しなやかさと強さを求めて進化を重ねています。アウディの走りの領域は、ワンランク上へ、さらなる未知の領域へとますます広がり続けています。

ニューラインアップ。独創の2.3ℓ5気筒エンジン。

アウディ 80のニューフェイス、アウディ 80 2.3Eには、アウディ 100のパワーユニットとして信頼の高い2.3ℓ直列5気筒エンジンを搭載しています。4気筒並みのコンパクトさと経済性、6気筒並みのパワーと静粛性を有するこのエンジンは、熟成と進化を重ねたアウディの自信作です。最高出力130PS/5,500rpm(ネット)、最大トルク18.9kgm/4,000rpm(ネット)。低回転域からの充分なトルクを発揮し、卓越したレスポンスと粘り強さを誇るエンジンです。またタイミングベルトには温度感応ベルトテンショナーブリーを装着。ベルトの張りを一定に保



ち、メンテナンスを軽減しています。

パワーユニットの基本。信頼の2.0ℓ4気筒エンジン。

アウディ 80 2.0Eには2.0ℓ直列4気筒エンジンを搭載。最高出力115PS/5,400rpm(ネット)、最大トルク16.6kgm/3,200rpm(ネット)を発揮するこのパワーユニットは、新たにデジファント電子燃料噴射制御システムを採用しています。常に最適



な燃焼が得られるよう各種センサーが燃料供給、点火時期等をコントロール。またハイブロック構造の採用でエンジン本体の剛性を高めるとともに、静粛性も向上させています。常用回転域の滑らかさ、俊敏さは、ストップアンドゴーを繰り返す市街地走行でも、また高速走行でも優れた実力を発揮します。

FF半世紀以上の実績が生んだ、高い走行安定性。

左右等長のドライブシャフトにより、シンメトリーな重量配分を可能にし、均等な駆動力を駆動輪に伝えることから、アウディが駆動方式の理想と考えるFF縦置きレイアウト。1931年に世界初のFF量産車を送り出して以来、アウディは半世紀以上にわたってFFの技術を進化させ続けています。アウディ 80では、全幅を変えずにトレッドを前30mm/後35mm拡大し、同時にホイールベースも65mm延長。快適な乗り心地と高い走行安定性を実現しています。足回りは、フロント マクファーソンストラット



トーションビーム トレーリングアーム リヤサスペンション

サスペンションのセッティングに、より最適化を図っています。リヤには新たにトーションビーム トレーリングアームサスペンションを採用し、ラバーマウントひとつから容量をアップ。逞しく、しなやかな脚力は、コーナリング特性、直進性の向上とともに、路面、走行状態を越えた快適性能を実現しています。

走行安定性と静粛性を高めるボディ剛性。

エンジン、サスペンションとならんでドライブフィールの印象を決定する、ボディ剛性。元来、剛性の高さを誇るアウディのボディですが、アウディ 80では基本性能の向上に伴い、さらにシル、センターピラーを中心に強化しています。そのために費された重量は約10kgに及んでいます。また、ルーフとルーフフレームの接着接合という新技術の採用も、堅固なモノコック構造に貢献。これまでに比べさらに約18%の剛性アップを達成。静粛性に寄与するとともに、ドライバーの意のままに路面を忠実にトレースする、素直なハンドリング特性を生んでいます。



パワフルに、エコノミーに。モードセレクター付4速A/T。

アウディ 80には、新しくモードセレクター付4速A/Tが搭載されています。3速、4速には燃費向上に効果を発揮するロックアップ機構が内蔵され、モードセレクターにより、2種類のシフトプログラムが選べます。通常モードでは比較的低い回転数でシフトアップを行ない、走りを犠牲にすることなく、エコノミー走行が可能。sportモードに切り替えると高回転域をいかしたシフトアップを可能にし、アクティブなドライビングが楽しめます。



モードセレクター付4速A/T

機能とセンスの融合が、気品あるくつろぎを広げる。



ひとり、心の赴くままにステアリングを握る。カップルで語りながら、クルージングを楽しむ。そして家族そろって小旅行へ。時には大切な荷物が広大なラゲッジスペースを要求することもある…。アウディは、コンパクトサルーンに、これらすべての機会に過不足なく対応できる快適さとスペースユーティリティを求めました。リヤシートを可倒式にすることで、使い勝手に優れたトランクスペースをつくりあげ、新しいゆとりを広げています。

奥行ある心地良さを誇るラグジュアリー空間。

洗練された気品あふれる空間として定評を博しているアウディの室内は、延長されたホイールベースによってさらなる乗り心地の向上を実現しています。アウディ 80のシート地にはアウディ 100と同じチェニールベロアを新たに採用。落ち着いた質感がワンランク上のグレード感を醸し出しています。フロントシートは、サイド面をやや固くし、シート座面を柔らかめとするマルチフォームラバー構造を採用。さまざまな体軀の人が座っても、常にゆとりある座り心地が味わえます。十分な厚さと幅を確保したバックレストは、コーナリングでのホールド性にも優れ、ロングドライブでも疲れが少なく、アウディ独特の人を包み込むような安心感をつくりだしています。またリヤシート左右には新たにヘッドレストを装備。加えて、



マルチフォームラバー構造のフロントシート

リーディングライトなど行き届いた装備類が深くつみぎをもたらします。



フィット感を高める、機能的デザインのドライビング空間。

何より操作しやすいこと。そしてドライバーの目と手になじむこと。アウディ 80のインストルメントパネルは、エレガントであるだけでなく、人間工学に基づいた機能的なものとなっています。防眩ガラス付インストルメントパネルに配置された計器類は、照度調節機能により昼夜を問わず視認性に優れています。センターコンソール上部には、新しくハザード警告灯スイッチがレイアウトされ、よりアクセスしやすくなっています。フロントシートは高さ調整機能付^{*}。シート全体の角度を変えることなく高さが調整できます。さらに前方にスライドさせるほど高くなるシートレイルと相まって、視界確保がしやすく、ペダル類操作でもベストポジションが得られます。

(^{*}アウディ 80 2.0Eはドライバーズシートにのみ高さ調整機能が付いています)

強力ブローア-のエアコンディショナー。

四季の温度変化とともに湿度が高い日本で、いつも変わらず快適であるために、アウディ 80のエアコンディショナーは、1分間に室内空気を4回交換可能な強力ブローア-を採用。エアアウトレット(換気排出口)もリヤバンパー部に設置し、室内へのノイズの侵入を防ぎ、優れた静音性を実現しています。

フラットフロアで使いやすいトランクルーム。

しかも分割可倒式リヤシートの採用で、使い勝手も向上。

コンパクトサルーンにとって、幅広い使用状況に応える十分なラゲッジスペースはなかなかの難題です。アウディ 80は、430ℓ

(VDA測定法)という余裕のスペース。しかもリヤシートが2:1の分割可倒式となり、バックレストをすべてたたむと712ℓという広大なラゲッジスペースが出現します。トランクフロアもフラットで、荷物の出し入れがいたって容易。一新されたリヤサスペンションと、燃料タンクをプラスチック素材で成型することで床下にレイアウトした結果です。またトランクフードのダブルヒンジはコンパクトに折りたためますので、トランクスペースがフル活用できます。



2:1の分割可倒式リヤシート採用により、広大なラゲッジスペースを実現。

人間のために、地球のために。
アウディは、「社会性能」にも磨きをかけています。



PHOTO/Audi 80 2.0E 日本に輸入される車両は、一部写真と異なります。

いつでも快適なクルマであり続けるには、高い安全性が求められます。いつまでも快適にお乗りいただくためには、高い品質が欠かせません。すべてのアウディ車には、独創のプロコン-テン安全システムを標準装備。このシステムへの信頼度の高さは、ドイツ「auto motor und sport」誌、ADAC「ADAC motorwelt」誌等の安全性比較テストで、特に衝突時における頭部をしっかり守る効果が実証されています。よりシンプルな構造で、確実作動を旨とするこのシステム。アウディらしさの好例です。またフルジंकボディの採用による、高品質なクルマづくり、そして限られた資源を大切に、地球環境を守るクルマとそのシステムづくりにもアウディは積極的に取り組んでいます。生産段階から環境汚染物質は使わないのはもちろんのこと、リサイクル化も積極的に推し進め、アウディ 80の約75%を再生可能部品で製造するに至っています。

〈未然に防ぐ〉、〈最小限に抑える〉— 全身に行き渡る安全装備。クルマの安全は2つの考え方により形成されています。それは事故を未然に防ぐアクティブセーフティ（能動的安全性）。そして万が一衝突してしまった際に、被害を最小限に抑えるパッシブセーフティ（受動的安全性）です。この2つがクルマの両輪のように機能してこそ、安全は初めて確保されるのです。アウディは、アクティブセーフティ向上のために、危険回避能力を高めるブレーキ性能を重視しています。アウディ 80には、確かな制動力/耐久性を備える大口径ディスクブレーキ（フロントはベンチレーテッド）を装備。さらにアウディ 80 2.3EにはABS（アンチロックブレーキングシステム）を標準装備（2.0Eは受注発注）。滑りやすい路面状況ではホイールに適切なブレーキ圧をかけてホイールロックを防止、ステアリングの方向性を保持します。加えて、片側の回路に異常が起きても左右均等の制動力が得られる対角線接続2回路式ブレーキシステムやヘッドライトウォッシャー（2.3Eのみ）、リヤフォグランプ等で走行中の安全を

図っています。また、ブレーキを踏んでいないと[P]及び[N]レンジから[D]レンジにシフトできないA/Tシフトロックを採用。[P]以外ではキーを抜けないこの機構が、発進時の誤操作を防止します。

独創のプロコン-テン安全システム。

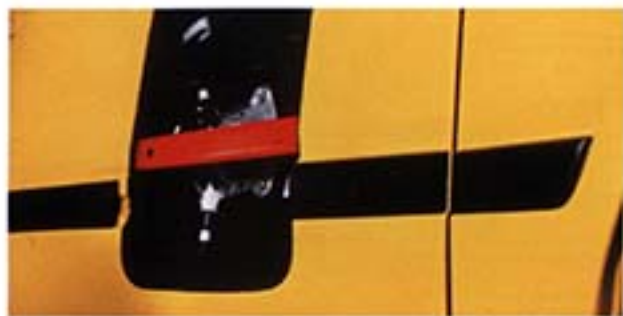
安全思想のもう一方の柱として、被害を最小限に抑えるパッシブセーフティがあります。その代表例が、アウディ独創のプロコン-テン安全システム。衝突時の衝撃により、エンジンとトランスミッションが押し込められる力を利用。瞬時にスチールワイヤーがステアリングホイールとコラムを引き込み、同時にシートベルトを締め付け、ドライバーとパッセンジャーを保持します。この一連の動きはわずか1/100秒以内に行なわれ、正面から左右30度の角度まで有効です。このほか車体前後のクラッシュブルゾンは、エンジンルームとトランクルームがアコーディオン状になってショックを吸収。その一方、客室部分は堅固なフレームに囲まれたセーフティセル構造ボディ。側面からの衝撃にはサイドプロテクションバーが対応。その他、高さ調整可能な3点式フロントシートベルト、ガイドナー付リヤ3点式シートベルト(センターは2点式)など、安全への細かな配慮が随所に施されています。



1/100秒でトランスミッションに設置されたワイヤーが作動する、プロコン-テン安全システム



ガイドナー付リヤシートベルト



サイドプロテクションバー

いつまでも新しい、高品質。

錆保証10年のフルジंकボディ。

本当にいいクルマだからこそ、少しでも長く乗り続けていただきたい。アウディは、高品質追求の面でも独自の道を歩んでいます。その成果が量産サルーンとして世界で初めて実現したフルジंकボディです。完全亜鉛メッキされた鋼板をボディ全面に使用することによって、優れた防錆・防蝕性を発揮。ボディを徹底的にガードしています。このほかにも、小石や粉石などからアンダーボディやホイールアーチの内側を守る厚さ1.5ミリのPVC加工や、ボディ空洞部を守るホットワックス処理、そして5層にも及ぶ入念な塗装など品質保持技術が、錆保証10年、塗装の保証3年を可能にしています。

地球、そして人に優しいクルマづくり。

環境保護もアウディの道です。

環境に配慮して走る。限りある資源のムダを省き、く優しくつくる。アウディは、自動車メーカーとしてこれらの問題に真正面から取り組んでいます。すでにアウディ社は、有害なクロロフルオロメタン、アスベスト、フロンガスの使用をすべての生産現場から排除。再利用対策としては、回収されたバンパーから世界で初めてバッテリーカバーをリサイクル生産したのをはじめ、フルジंकボディの亜鉛成分、アルミニウム、ステンレス、プラスチック、バッテリーの再生を実施するなど、エコロジカルな新しい道を切り拓いています。この結果、アウディ 80では、総重量の約75%に相当するパーツを将来リサイクルが可能な部品で製造するに及んでいます。またドイツインゴルシュタットのアウディ工場では、工場用水再処理システム、熱再処理システムを導入し生産するなど、地域、ひいては地球の環境保護対策を積極的に実行しています。



AUDI E8



E8

IN C 56



PHOTO/Audi 80 2.0E
日本に輸入される車両は、一部写真と異なります。

EQUIPMENT

		Audi 80 2.0E	Audi 80 2.3E			Audi 80 2.0E	Audi 80 2.3E		
トランスミッション	前進4速、後進1速 フルオートマチック(sportモード切替可能)	●	●	ガード	衝撃吸収ハンドル	●	●		
	タイヤ	195/65 VR15 スチール ラジアルタイヤ	●		●	パデッド ダッシュボード	●	●	
	ホイール	6J X15 エアロディッシュタイプ アルミホイール	●		●	対角線連続2回路式ブレーキシステム	●	●	
	バッテリー	12V55Aバッテリー(▲12V50A)	▲		●	サーボアシスト付4輪ディスクブレーキ (フロントベンチレーテッド)	●	●	
	外 装	サイド プロテクションモール	●		●	プロコンテン安全システム	●	●	
		ハロゲン ヘッドライト	●		●	セーフティセル構造ボディ	●	●	
		ハロゲン フォグランプ	●		●	安全性	サイドプロテクションバー	●	●
	室 内	アジャスタブル ヘッドレスト付フルリクライニングシート	●		●	ABS(アンチロック ブレーキング システム) (★受注発注) ★	●	●	
		シート	シーズルタイプ ヘッドレスト(フロント/リヤ)		●	●	オートマチック シフトロック機構	●	●
		シートベルト	高さ調整可能なフロントシート (▲12V50A) (スロットのみ)		▲	●	センターバッド付セーフティ ステアリング	●	●
前席・二重感知タイプ3点式 =メーカー純正(高さ調整可能)			●	●	脱着式防眩室内ミラー	●	●		
後席・二重感知タイプ3点式(センター2点式) =メーカー純正			●	●	オールティンテッドガラス(フロント合わせガラス)	●	●		
計器類		デジタル クオーツ クロック	●	●	リヤドア チャイルドブルーロック	●	●		
		シフトインジケーター	●	●	防眩ストライプ付フロントガラス	●	●		
オーディオ		メーター照度調整機能・スイッチ類照明	●	●	ヘッドライトウォッシャー	●	●		
		電子音調フルロックオートリバース カセットステレオ	●	●	パワー ステアリング	●	●		
		6スピーカーシステム	●	●	パワー ウィンダー	●	●		
装 備	リサーチレーション機能付エアコンディショナー	●	●	センターロッキング システム	●	●			
	革巻き4本スポーク ステアリング ホイール	●	●	熱線入り電動ドアミラー	●	●			
	フロントドアポケット	●	●	リヤ フォグランプ(右側のみ)	●	●			
	リヤ スプリットシート	●	●	残照装置付室内灯	●	●			
	リヤ センターアームレスト	●	●	オプション	電動テクト付2ウェイ スライディング ルーフ	●	●		
リーディングライト	●	●							
カセットホルダー	●	●							

10 アウディは錆保証10年。

アウディ車ならではの4つの保証

1. 一般保証・5万km以内、2年間

新車登録日2年2年間、併し、その期間内でも走行距離5万km以内において、一般走行に必要不具合を保証するものです。

2. 塗装の保証・3年間

新車登録日2年3年間の塗装保証。併し、登録後に再塗装された部分はその対象となりません。

3. 錆の保証・10年間

2008年1月1日以後登録された、2008年モデル24全車種に対し、新車登録日2010年間の車体の錆の保証。内容は腐蝕に24穴あり保証とし、その部分の補修を保証いたします。

4. 純正部品の保証・1年間

修理等で純正部品を交換した場合、取付後1年間保証いたします。

4つの保証項目については、部品代金及び作業工賃を無償といたします。併し、正規輸入会社にて輸入し、VW・アウディの指定サービス工場での修理を受けた車に限ります。

このカタログについてご不明な点は、ヤナセのアウディ ネットワークへお問い合わせください。

SPECIFICATIONS

車種名		Audi 80 2.0E ^{4Dr.} _{A/T}	Audi 80 2.3E ^{4Dr.} _{A/T}	
型式		E-8CABK	E-8CNG	
寸法・重量	全長	mm 4,485	4,485	
	全幅	mm 1,695	1,695	
	全高	mm 1,400	1,400	
	ホイールベース	mm 2,610	2,610	
	トレッド前/後	mm 1,440/1,465	1,440/1,465	
	最低地上高 空車時	mm 140	140	
	車両重量	kg 1,280	1,350	
	乗車定員	名 5	5	
性能	最小回転半径	m 5.4	5.4	
	10モード*燃費	km/ℓ 8.2	7.2	
エンジン	型式	ABK	NG	
	種類	直列4気筒水冷	直列5気筒水冷	
	内径×行程	mm 82.5×92.8	82.5×86.4	
	総排気量	cc 1,984	2,309	
	圧縮比	10.4	10.0	
	最高出力(ネット)	PS/rpm 115/5,400	130/5,500	
	最大トルク(ネット)	kgm/rpm 16.6/3,200	18.9/4,000	
	燃料供給装置	デジタル	KE III ジェトロニック	
	燃料タンク容量	ℓ 70	70	
	使用燃料	無鉛ハイオク	無鉛ハイオク	
諸装置	クラッチ	トルクコンバーター	トルクコンバーター	
	トランスミッション	前進4速、後退1速、フルオートマチック (ロックアップ付)	前進4速、後退1速、フルオートマチック (ロックアップ付)	
	変速比	第1速	2.714	2.714
		第2速	1.551	1.551
		第3速	1.000	1.000
		第4速	0.678	0.678
		後退	2.111	2.111
	最終減速比	4.893	4.893	
	フロントサスペンション	マクファーソン ストラット	マクファーソン ストラット	
	リヤサスペンション	トーションビーム トレーリングアーム	トーションビーム トレーリングアーム	
フロントブレーキ	ベンチレーテッド ディスク	ベンチレーテッド ディスク		
リヤブレーキ	ディスク	ディスク		
使用タイヤサイズ	195/65VR15	195/65VR15		

*上記諸元数値は標準値を指します。

*10モード燃費は、定められた試験条件のしごきでの値です。実際の走行時には、この条件(気象、道路、車速、運転、整備などの状況)が異なっても、それに伴って燃費も異なってきます。

●本仕様・標準装備・諸元数は予告なく変更される場合があります。●正規輸入会社が日本に輸入する車は、安全対策および排気ガス対策の点で現行の国内基準をすべて満たしています。

●諸元数値は測定方法に基づき保安基準に適合させるため、ブレーキ、ヘッドライト、灯火類等改修箇所によって行われる改造により、納入車両はカタログに記載された写真と一部異なる場合がありますのでご了承ください。

いいものだけを世界から

カーライフを楽しむあなたのよいマナー

good new days

ヤナセ

輸入元 株式会社ヤナセ
フォルクスワーゲン・アウディ 営業部
〒115 東京都港区芝浦1丁目4-39
電話(大代表)東京(03)3452-4311